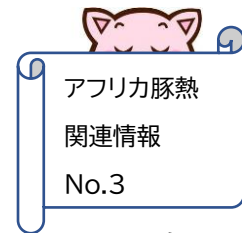


ドイツの養豚場で アフリカ豚熱（ASF）が発生



7月16、17日、ドイツ東部ブランデンブルグ州の3養豚場でASFが発生しました。ドイツ当局の調査によれば、発生農場間の直接的な疫学的関連は無く、3農場ともできる限りの対策を講じていたとのこと。また、ドイツ当局は、野生イノシシが生息しているような地域への人の出入りが多い7月及び8月はASFのまん延リスクが高い時期であることに言及しています。

ドイツの野生イノシシのASFは、8月13日現在、1,893例が確認されており（初発生は2020年9月9日）、今回の養豚場での発生は、野生イノシシの生息地域への人の出入りでASFウイルスが農場に持ち込まれた可能性が高いと考えられています。

野生イノシシの生息地域に入った場合は、特に衣類や靴、自動車のタイヤ周りの消毒を行うなどの交差汚染防止対策を徹底すること、山中に入る可能性のある登山者も一定のリスクがあることを認識しておく必要があります。日本はASFの発生はありませんが、このことは豚熱についても言えることです。

我が国は、2020年9月11日以降、ドイツからの豚、豚肉等の輸入の一時停止措置を講じています。

【関連サイト】

◆ 農林水産省

ドイツの家畜豚におけるアフリカ豚熱（ASF）発生について [asf-862.pdf \(maff.go.jp\)](#)